

第5回かながわ新聞感想文コンクール作品紹介

第5回かながわ「新聞感想文コンクール」(神奈川県新聞社主催、京浜・県下神奈川会、神奈川新聞販売協同組合共催)の入賞者48人がこのほど決まった。同コンクールは、児童・生徒に新聞に親しんでもらおうと開催しており、今年から新たに小学4年生の部を新設。中学3年生までの6部門で277校から5440点の応募があった。各部門で最優秀賞1、優秀賞3(うち神奈川新聞社賞1)、入選4作品が選ばれ、最優秀と優秀賞の計24作品を紹介する。

優秀賞・神奈川新聞社賞

私が、この記事を選んだ理由は、学校のある平塚市のスーパーしまむらで、同じ市内にある知的障害者施設の人達が一生懸命仕事をしている写真が載っていたからです。

学校の登下校で使うバスには、障害者の人達が沢山乗ってきます。今まで障害者を持った人達は学



校で授業を受けているのかと思っていました。この記事を読んで働く喜びを味わい生き生きと仕事に励んでいると書いてありました。障害者を持った人達も自立して社会参加することで喜びを味わえる事を知りました。そしてスーパーもチーム制のため欠勤がなく複数の作業を任せる事が出来て、雇用管理の負担が軽くなり、何より

障害者支援と企業

中谷 ふみな

県立平塚中等教育学校

働くことに喜びを感じる障害者の姿があるようです。

私の父と母の会社でも障害者もつた人が働いているようです。父と母に聞いてみたところ、やはりとても真面目で頼んだ仕事は、きちんときれいに仕上げてくれるそうです。頼んだ仕事を仕上げるため、企業側には年間支払い工賃百五十万円(六万三千円)が支給される制度です。なぜそんなに少ないの度ですか。このような制度があるの聞きました。今までの自分の考えとは違って驚きました。

また、雇用しているスーパーしまむらではパート従業員の退社が続き、人手不足になったのをきっかけに障害者の社会参加、就労訓練の場を得られ、収入の確保にもつながる事で、自立を手助けできるように考えているそうです。作業としては、清掃、商品陳列、袋詰めなどでパートさんに比べれば作業はゆつくりだが、真面目に一生懸命働いていて従業員の見本になると喜んでくれるようです。

「在宅就業障害者特別調整金」をスーパー業界で初めて受給する事になったのです。初めて聞いた言葉、特別調整金とは、主に雇用契約による就労が困難な障害者が働く機会を増やすため、企業側には年間支払い工賃百五十万円(六万三千円)が支給される制度です。なぜそんなに少ないの度ですか。このような制度があるの聞きました。今までの自分の考えとは違って驚きました。

また、雇用しているスーパーしまむらではパート従業員の退社が続き、人手不足になったのをきっかけに障害者の社会参加、就労訓練の場を得られ、収入の確保にもつながる事で、自立を手助けできるように考えているそうです。作業としては、清掃、商品陳列、袋詰めなどでパートさんに比べれば作業はゆつくりだが、真面目に一生懸命働いていて従業員の見本になると喜んでくれるようです。

「障害者が大きな声でいさづをしながらお辞儀ができるようにな

り、できる仕事の種類が増えるなど、成長を実感する瞬間が喜び」と語っています。できなかつたことが出来るようになるのは、とてもうれしいことだと思えます。

しかし、この制度を利用している企業は全国で四十五件です。なぜそんなに少ないのでしょうか。私は、企業側、障害者側共にメリットがあるので利用した方がいいと思います。

何より障害者の喜びの声を多く聞かされました。真面目に一生懸命生き生きと仕事をしている姿が、社員のお手本になると思っています。「障害者施設外就労」が、もっと全国に拡大して健常者、障害者が差別なく働ける企業が増える、もっといい日本になるのではないかと思います。

「障害者が大きな声でいさづをしながらお辞儀ができるようにな